鈴木 麗子 議員

町なか福祉サロンの充実が地域福祉力向上へ

「福祉センター等の利用を検討」

議員 市内の空き店舗を利用し、生活の近くに高齢者から児童まで集えるサロン的な居場所を中学校単位で開設するとともに、その場を活用した民生委員による町なか相談所を実施してはどうか。

福祉部長 こうしたサロンの存在は、地域福祉における助け合いを育むためにも必要と考え、福祉センター等を福祉サロンに活かせるよう検討したい。また、民生委員による生活相談は、福祉青少年会館で月に4回開催しているが、今後も活動の充実を目指したい。

スポーツセンターの屋外トイレは

議員 スポーツセンターのグラウンドを夜間ウォーキング等で利用する市民にもトイレ利用ができるよう、トイレの利用時間拡充と案内板の設置を求める。

市民生活部長 屋外トイレの利用は警備の関係上、概ね午前7時半から午後9時半までとお願いしたい。案内板については設置する。

緑のボランティアへの支援を

議員 戸田市内を彩る花壇の多くは、緑のボランティアの陰の尽力により拡大・維持されているが、さらに活動の輪が広がるよう、活動時に使用するユニホームやスタッフ証等の提供を行ってはどうか伺う。

都市整備部長 ボランティアの意向を聞き、支援策を検討する。

▶緑のボランティアの活動風景

中名生 隆 議員

シルバー人材センターの拡充を

「今後も支援していきたい」

議員 経験豊かな信頼感のある高齢者の存在が重要な時代となる。高齢者を対象に電球等の交換や浴槽等の清掃に出向けるよう、仕事の受注拡大を図ってはどうか。

福祉部長 高齢者が、就業を通じ社会参加する充実感と生きがいづくりを目指し、支援する。

児童見守りシステムは

議員 児童が犯罪に巻き込まれる悲惨な事件への安全確保に、電子装置システムを実施してはどうか。

教育部長 新校務システムを導入し、学校と協議しながら、メール配信システムを工夫していく。

介護予防事業について

議員 今までの事業内容の拡大では、高齢者の参加増は難しい。ウィーフィットの活用で腰痛予防や冷え性改善等、グループでテレビの画面を見ながら、楽しく無理のない介護予防事業を検討してはどうか。

福祉部長 ウィーフィットのようなゲームソフトの導入にあたっては、課題もあるが、今後検討していく。

▶楽しく無理なく足踏み運動

法務局跡地について

議員 さいたま地方法務局戸田出張所の交渉経過はどのようになっているのか。

財務部長 財産譲渡にかかる国の考えと市の考えの調整協議に入り、具体的な協議段階で、議会に報告し、市の方針を決定する。

斎藤 直子 議員

こどもの国を将来都市像の象徴に

「子どもを核とした施設とする」

議員 「こどもの国」再整備のコンセプトは。

こども青少年部長 駅に近くて豊富な緑地帯を保存し、子どもたちが駆け回れる広い公園やちびっ子プールなどの現状を活かしつつ、「子どもを核とした施設」を基本的なコンセプトとし、乳幼児、児童、中高生などが創意工夫をしながら自由に利用できる施設を考えている。

議員 スケジュールはどのように進めるのか。

こども青少年部長 平成26年度開園を目指し、23年度に基本計画・基本設計の実施、24年度に実施設計、25年度に工事を予定している。

議員 基本計画や基本設計に、子どもをはじめ、市民の意見をどのように取り入れるのか。子どもの発想を絵や工作で募集してはどうか。

こども青少年部長 昨年実施のアンケート結果や、地域住民、パブリック・コメントを利用した。絵や工作の募集は検討していく。

議員 入札方法はどのように考えているのか。五感を育む、発想豊かな業者選定を望む。

こども青少年部長 プロポーザル方式や総合評価方式など様々な入札形態があるが、どれが良いか関係課と調整し決定する。

議員 100年以上も残したい財産として将来都市像の象徴を望む。

▶屋内でも砂遊び…釧路市こども遊学館

望月 久晴 議員

tocoバス喜沢循環を市役所経由に

「今後、課題の検討をしていく」

議員 東循環は1月16日から喜沢循環と川岸循環の2系統に分割されたが、喜沢循環は戸田市役所に行かない。戸田公園駅の手前で川岸循環に乗った乗客は、戸田公園駅で川岸循環から喜沢循環にルート変更となるため、次の川岸循環に乗り換えなければ市役所に行くことができず、大変困っている。喜沢循環も市役所経由にできないか。

▶市民の足がわりとなっているtocoバス

市民生活部長 今後の市民、利用者動向、市政座談会、地域要望等を積み重ねて検討する。

温室効果ガスの削減計画の具体的内容は

議員 戸田市域の温室効果ガスの削減について、「地球温暖化対策実行計画」に基づき、具体的にどのように削減していくのか。

市民生活部長 主な対策としては、LEDライトなど省エネ機器の普及による「工場・オフィスの低炭素化」や住宅の低炭素化、導入補助などによる電気自動車の普及、ごみ減量・リサイクルの推進や緑のネットワークの形成、太陽エネルギー利用促進である。

特養の2ヵ所建設へ

議員 10年後に高齢者の急激な増加が予測されるがどうか。また要介護者の増加に介護施設は対応できるのか。

福祉部長 10年後は2万2549人で、全体の16・5%を占める。高齢者の介護施設は第5期介護保険事業計画の中で検討していくが、特養は2ヵ所の建設が予定されている。